

資源ツインαファンド (通貨選択型) マネープールコース

第4期運用報告書 (全体版) (決算日 2017年1月25日)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	2015年5月8日から2018年7月25日まで	
運用方針	安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。	
主要運用対象	ベビーファンド	「T & D マネープールマザーファンド」を主要投資対象とします。
	マザーファンド	わが国の国債および公社債ならびに短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	ベビーファンド	株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時(年2回、1月および7月の各25日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。 分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「資源ツインαファンド(通貨選択型)マネープールコース」は、2017年1月25日に第4期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社
〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先
投信営業部 03-6722-4810
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)
<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率			
設 定 日 2015年 5月 8日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 0.1
1 期 (2015年 7月 27日)	10,001	0	0.0	—	—	0.1
2 期 (2016年 1月 25日)	10,002	0	0.0	60.6	—	0.1
3 期 (2016年 7月 25日)	9,942	0	△0.6	—	—	0.09
4 期 (2017年 1月 25日)	9,938	0	△0.0	—	—	0.09

(注) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率		
期首 (前期末) 2016年 7月 25日	円 9,942	% —	% —	% —
7 月 末	9,942	0.0	—	—
8 月 末	9,941	△0.0	—	—
9 月 末	9,940	△0.0	—	—
10月 末	9,940	△0.0	—	—
11月 末	9,939	△0.0	—	—
12月 末	9,939	△0.0	—	—
期 末 2017年 1月 25日	9,938	△0.0	—	—

(注) 基準価額は1万円当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

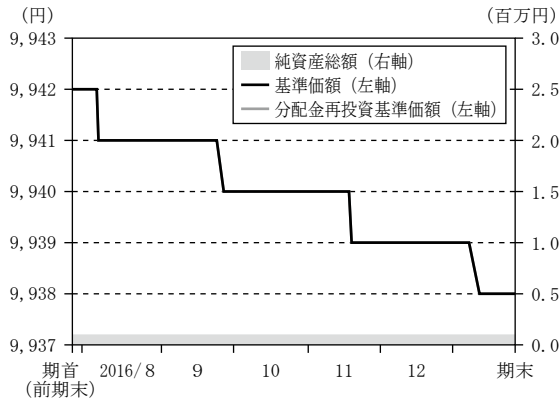
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第4期首：9,942円

第4期末：9,938円（既払分配金0円）

騰落率：△0.0%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、期首（2016年7月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、主にコールローンおよび「T&Dマネープールマザーファンド」へ投資した結果、マザーファンドの基準価額変動の影響から、小幅に下落しました。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
T&Dマネープールマザーファンド	△0.0%

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは低下しました。期首は△0.27%程度でしたが、2016年9月に日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定するなど、短期金利を低位に抑える金融政策が継続したこと、海外投資家からの需要の高まりなどから利回りは低下し、期末は△0.31%程度となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

期を通じて、「T&Dマネープールマザーファンド」に90%程度投資し、残りの資産につきましてはコールローンで運用を行いました。

【T&Dマネープールマザーファンド】

国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%となりました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

■ 分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は、分配対象収益がないため、見送らせていただきました。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「T&Dマネープールマザーファンド」を主要投資対象として運用を行います。

【T&Dマネープールマザーファンド】

日本経済は、景気の基調がしっかりしているとは言えず、今後も不安定な状況が続くと見られます。このような状況下では、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いと予想します。日銀が導入した「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細（2016年7月26日から2017年1月25日まで）

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2016/7/26～2017/1/25		
	金額	比率	
平均基準価額	9,940円		期中の平均基準価額です。
信託報酬	0円	0.001%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(0)	(0.000)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(0)	(0.000)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(0)	(0.000)	運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
合計	0	0.001	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

※その他費用（その他）は計上していませんが、10ページに記載しているT&Dマネープールマザーファンドの1万口当たりの費用明細には、当ファンドの作成対象期間外に発生した金銭信託に係る手数料をその他費用（その他）に計上しています。

売買および取引の状況 (2016年7月26日から2017年1月25日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

当期における設定、解約はありません。

利害関係人との取引状況等 (2016年7月26日から2017年1月25日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

自社による当ファンドの設定・解約状況 (2016年7月26日から2017年1月25日まで)

期首残高 (元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高 (元本)	取引の理由
千円 100	千円 —	千円 —	千円 100	当初設定時における取得

(注) 単位未満は切捨て。

組入資産の明細 (2017年1月25日現在)

親投資信託残高

種 類	期首 (前期末) 当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額
T & D マネープールマザーファンド	千口 87	千口 87	千円 88

(注) T & D マネープールマザーファンド合計の受益権口数は755,172千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2017年1月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
T & D マネープールマザーファンド	千円 88	% 89.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	11	10.5
投 資 信 託 財 産 総 額	99	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年1月25日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	99,381円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	10,420
T&Dマネーボールマザーファンド(評価額)	88,961
(B) 純 資 産 総 額(A)	99,381
元 本	100,000
次 期 繰 越 損 益 金	△ 619
(C) 受 益 権 総 口 数	100,000口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(B/C)	9,938円

- (注) 期首元本額 100,000円
 期中追加設定元本額 0円
 期中一部解約元本額 0円
- (注) 元本の欠損
 当期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は619円です。
- (注) 1口当たり純資産額は0.9938円です。

分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)および費用控除後の有価証券売買等損益(0円)より、分配対象収益は0円(1万口当たり0円)となりましたので、当期の分配は見送らせていただきました。

損益の状況

当期 自2016年7月26日 至2017年1月25日

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 35円
売 買 損 益	△ 35
(B) 当 期 損 益 金(A)	△ 35
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 161
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 423
(配 当 等 相 当 額)	(△ 359)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 64)
(E) 合 計(B+C+D)	△ 619
(F) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(E+F)	△ 619
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 423
(配 当 等 相 当 額)	(△ 359)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 64)
繰 越 損 益 金	△ 196

- (注) 損益の状況の中で
 (A)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 (単位:円・%、1万口当たり・税引前)

項 目	当 期
	2016年7月26日 ～2017年1月25日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	0

- (注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

補足情報

T & D マネープールマザーファンドの主要な売買銘柄

当期における売買はありません。

T & D マネープールマザーファンドの組入資産の明細

当期末における組入れはありません。

T & D マネープールマザーファンド

運用報告書（全体版） 第24期（決算日 2016年12月12日）
（計算期間 2016年6月11日から2016年12月12日）

「T & D マネープールマザーファンド」は、2016年12月12日に第24期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主要運用対象	わが国の公社債および短期金融商品等を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産総額
	円	騰落中率			
20期（2014年12月10日）	10,183	0.0	22.0	—	百万円 1,771
21期（2015年6月10日）	10,183	0.0	21.3	—	1,736
22期（2015年12月10日）	10,184	0.0	65.8	—	1,521
23期（2016年6月10日）	10,183	△0.0	—	—	780
24期（2016年12月12日）	10,179	△0.0	—	—	768

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債券組入比率	債券先物比率
期首 (前期末) 2016年 6 月10日	円 10,183	% —	% —
6 月末	10,182	△0.0	—
7 月末	10,182	△0.0	—
8 月末	10,181	△0.0	—
9 月末	10,180	△0.0	—
10 月末	10,180	△0.0	—
11 月末	10,179	△0.0	—
期 末 2016年12月12日	10,179	△0.0	—

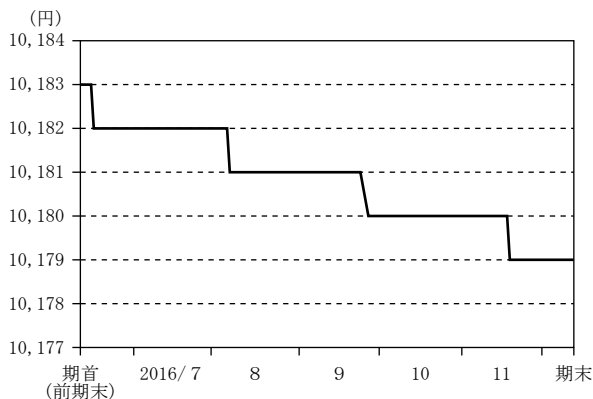
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の変動要因

基準価額は、期首の10,183円からスタートし、期末は10,179円となりました。運用対象であるコールローン等の利回りがマイナスで推移したことから、下落となりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは低下しました。期初は $\Delta 0.27\%$ 程度でしたが、2016年9月に日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定するなど、短期金利を低位に抑える金融政策が継続したこと、海外投資家からの需要の高まりなどから利回りは低下し、期末は $\Delta 0.44\%$ 程度となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%となりました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

日本経済は、景気の基調がしっかりしているとは言えず、今後も不安定な状況が続くと見られます。このような状況下では、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いと予想します。日銀が導入した「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2016年6月11日から2016年12月12日まで)

費用の明細

項目	当期	
	2016/6/11~2016/12/12	
	金額	比率
平均基準価額	10,180円	
その他費用 (その他)	0円 (0)	0.003% (0.003)
合計	0	0.003

(注) 費用項目につきましては3ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

売買および取引の状況 (2016年6月11日から2016年12月12日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2016年6月11日から2016年12月12日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2016年12月12日現在)

下記は、T&Dマネープールマザーファンド全体(755,001千口)の内容です。

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2016年12月12日現在)

項目	当 期		末
	評 価 額	比 率	
コール・ローン等、その他	千円 768,517		% 100.0
投資信託財産総額	768,517		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年12月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	768,517,255円
コール・ローン等	768,517,255
(B) 負 債	1,515
未 払 利 息	1,515
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	768,515,740
元 本	755,001,400
次 期 繰 越 損 益 金	13,514,340
(D) 受 益 権 総 口 数	755,001,400口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額(C/D)	10,179円

(注) 期首元本額 766,234,066円
 期中追加設定元本額 82,586,525円
 期中一部解約元本額 93,819,191円

(注) 1 口当たり純資産額は1,0179円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

世界物価連動国債ファンド	90,610,452円
T & Dインド中小型株ファンド	19,910,198円
米国リート・プレミアムF (毎月分配型) 円ヘッジコース	3,385,141円
米国リート・プレミアムF (毎月分配型) 通貨プレミアムコース	40,218,191円
米国リート・プレミアムF (年2回決算型) マネープール・コース	88,475円
豪州高配当株ツインαファンド (毎月分配型)	4,916,905円
野村エマージング債券 (円コース) 毎月分配型	33,903,179円
野村エマージング債券 (円コース) 年2回決算型	5,675,163円
野村エマージング債券 (米ドルコース) 毎月分配型	6,884,550円
野村エマージング債券 (米ドルコース) 年2回決算型	1,424,313円
野村エマージング債券 (豪ドルコース) 毎月分配型	38,989,580円
野村エマージング債券 (豪ドルコース) 年2回決算型	2,636,170円
野村エマージング債券 (ブラジルリアルコース) 毎月分配型	311,359,888円
野村エマージング債券 (ブラジルリアルコース) 年2回決算型	9,735,828円
野村エマージング債券 (南アフリカランドコース) 毎月分配型	1,413,489円
野村エマージング債券 (南アフリカランドコース) 年2回決算型	131,726円
野村エマージング債券 (カナダドルコース) 毎月分配型	2,513,771円
野村エマージング債券 (カナダドルコース) 年2回決算型	799,555円
野村エマージング債券 (メキシコペソコース) 毎月分配型	70,541,888円
野村エマージング債券 (メキシコペソコース) 年2回決算型	11,872,046円
野村エマージング債券 (トルコリラコース) 毎月分配型	47,975,980円
野村エマージング債券 (トルコリラコース) 年2回決算型	4,042,047円
野村エマージング債券 (金コース) 毎月分配型	20,422,125円
野村エマージング債券 (金コース) 年2回決算型	8,783,712円
野村エマージング債券投信 (マネープールファンド) 年2回決算	4,502,463円
資源ツインαファンド (通貨選択型) ブラジルリアルコース	4,910,145円
資源ツインαファンド (通貨選択型) トルコリラコース	883,826円
資源ツインαファンド (通貨選択型) 米ドルコース	6,383,188円
資源ツインαファンド (通貨選択型) マネープールコース	87,406円

損益の状況

当期 自2016年6月11日 至2016年12月12日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 288,287円
支 払 利 息	△ 288,287
(B) そ の 他 費 用	△ 23,296
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	△ 311,583
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	14,013,257
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	1,503,475
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 1,690,809
(G) 合 計(C+D+E+F)	13,514,340
次 期 繰 越 損 益 金(G)	13,514,340

(注) 損益の状況の中で

(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。